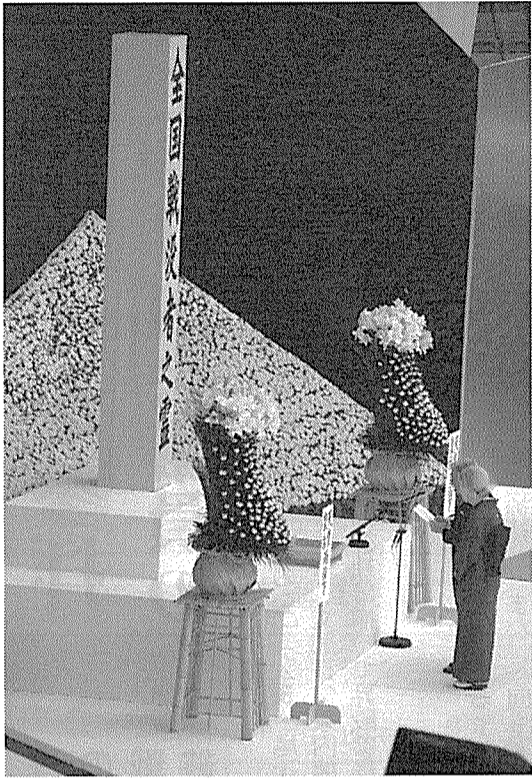


# 天皇・皇后両陛下がご臨席



天皇陛下がおことばを述べられる  
= 8月15日、日本武道館で

式典は午前十一時五十分、立する中、加藤勝信厚生労働大臣の先導で両陛下がご臨席された。国歌斉唱に続いて、安倍晋三内閣総理大臣が式辞で「戦争の惨禍を二度と繰り返さない、どのような世に誓いを貫いて参ります」と決意を述べた。

その後、両陛下が「全国戦没者追悼式」と書かれた標柱の前に進まれ、正午の時報に合わせて参列者とともに戦没者へ黙禱を捧げられ、天皇陛下がおことばを述べられた。

次に、遺族を代表して父をテニアン島で亡くした鈴木喜美男さん(宮城県連合遺族会副会長)が追悼の辞別掲を述べた。参列した遺族は五千四百五十七人。戦没者の父

## 天皇陛下おことば

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くのひと々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来既に七十三年、国民のたゆまない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、苦難に満ちた往時をしのぶとき、感慨は今なお尽きることがありません。

戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、ここに過去を顧み、深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されぬことを切に願い、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

## 全国戦没者追悼式

# 深い悲しみを新たに

## 73年目の終戦記念日

七十三回目の終戦の日を迎えた八月十五日、平成では最後となる政府主催の全国戦没者追悼式が東京・千代田区の日本武道館で天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ挙行された。追悼式には三権の長をはじめ、全国各地の戦没者遺族約六千五百人が参列し、正午の時報にあわせ一分間の黙禱が捧げられ、天皇陛下がおことば(別掲)を述べられた。



平成30年9月15日 第813号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0074 東京都千代田区九段南一丁目六番一七号  
千代田会館三階  
電話 03-3261-5521  
振替 00160-6-25389  
編集 発行人 村上和男  
毎月1回15日発行  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

## 参・比例代表候補者五人に推薦状手交

日本遺族政治連盟は七月二十日、来夏に行われる参議院議員通常選挙の比例代表候補五人に対し、水落敏栄理事長から推薦状が手交された。

- 補者は次の通り。
- ▼橋本 聖子氏
  - ▼佐藤 正久氏
  - ▼佐藤 信秋氏
  - ▼有村 治子氏
  - ▼衛藤 晟一氏

## 追悼の辞

本日に、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、各会の代表を始め、全国各地から遺族代表が集い、全国戦没者追悼式が挙行されるに当たり、戦没者の遺族を代表いたしまして、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

今年も私たちが遺族にとりまして、忘れることができない日を迎えました。先の大戦に於いて、祖国の平和と発展、家族安泰を祈りながら、戦場に散り、戦禍に倒れ、あるいは戦後、異境の地に於いて帰らぬ人となられた御英霊の御無念、苦しみを想う時、尽きることのない悲痛な想いが胸にこみ上げてまいります。

私は昭和十七年十二月にこの世に生を受け、父は三人の姉に続く初子の男子誕生で大変喜んでくれたのも束の間、翌年早々に出征し、昭和十九年八月一日にフィリピン諸島のテニアン島で帰らぬ人となりました。戦死の公報が届いた時、落胆した母のやり場のない想いを母の背中を感じたことを、おぼろげながら記憶に残っています。

遺留となった戦地からの便りもなく、東日本大震災により流失してしまいました。父の家族への思いや生きた証しを未だまで伝えていくことは、遺族としての役割と考へております。

両陛下におかれましては、我々遺族に寄り添っていただき、これまでサイパン、パラオ、フィリピンなど多くの激戦地に向かい、戦没者の慰霊に専念の誠を捧げていただきました。このことは、私たち遺族にとって、何事にも代え難い無上の慰めであり、衷心より御礼申し上げます。

政府が、八月十五日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に制定されましたことは、誠に意義深いものと存じます。

再び悲惨な戦禍を繰り返すことなく、世界の平和と命の大切さをしっかりと後世に受け継いでいくため、たゆまぬ努力を続けたいことを遺族一同にお願い申し上げます。

本日は、多くの御来賓の参列のもと、かくも厳かに追悼式を挙行していただきましたこと心から感謝申し上げます。

結び、御英霊の御冥福と、祖国日本の平和と発展、御参列の皆様のご多幸と御健康を祈念申し上げ、追悼の言葉といたします。

平成三十年八月十五日  
全国戦没者遺族代表 鈴木喜美男

## 母の参列はなく、最高齢百二歳を含む戦没者の妻は十四人、戦後生まれは千五百五十四人で、内、十八歳未満は百二十一人であった。また今年も、曾孫十四人が務めた。

七歳から十七歳の戦没者の玄孫・曾孫六人が「青少年代表」として献花を行った。そして「献花補助者」として戦没者の姪孫、曾孫十四人が務めた。

## 母の参列はなく、最高齢百二歳を含む戦没者の妻は十四人、戦後生まれは千五百五十四人で、内、十八歳未満は百二十一人であった。また今年も、曾孫十四人が務めた。

母の参列はなく、最高齢百二歳を含む戦没者の妻は十四人、戦後生まれは千五百五十四人で、内、十八歳未満は百二十一人であった。また今年も、曾孫十四人が務めた。

## 声なき声

今年の8月15日は平成最後の終戦の日となる。靖国神社周辺には早朝から強い陽射しが降りそそぐ中、多くの人が訪れていた。日本武道館では全国戦没者追悼式が挙行され、遺族ら6781人が参列した。天皇陛下は最後となる追悼のお言葉の中で戦後73年続いた平和の尊さを強調された。即位以来、戦没者慰霊を象徴の大切な務めとし、追悼式には皇后陛下と共に欠かさず出席された。標柱をじっと見つめるお姿、退出時には遺族らが集まった会場を一度二度と振り返り、頭をさげられるお姿に胸が一杯になった。只々感謝である。3年振りに旧ソ連の慰霊巡行に向いた。この国に来るといつもバイカル湖の話の思い出が。地元紙の広報紙に抑留者の体験談が記されていた。ソ連軍の将校に「もう戦争は終わりです。皆さんを両親の待つ故郷へ帰したい」と日本語で言われ貨車に乗せられた。途中停車の時誰かが「海だ!日本海だぞ」と隙間に顔を押し当てて叫んだ!違うと悟った時もう帰れないなと思ったという。長さ636km幅79kmの大きな三ヶ月湖。シベリア鉄道のバイカル湖付近からしばしば続く風景もごく一部に過ぎない。錯覚もするであろう。この強制労働も確実に語り継がねばなるまい。追悼式も新天皇へと引き継がれる。来年は戦後3代目となる天皇、皇后両陛下のもとで挙行される(八)

## 秋の夜長の御神楽

秋の夜長の御神楽

開門参拝時間：午前6時～午後9時 (雨天開催)

お問い合わせは靖国神社社務所まで  
TEL 03-3261-8326(代)  
http://www.yasukuni.or.jp/  
※お越しの際は公共交通機関をご利用下さい。

## 特別中庭参拝

特別中庭参拝

全日午後4時30分から  
午後8時30分まで受付

御神楽の夕べ 神前神楽  
22日(土)・23日(日) 午後6時

奉納芸能  
江戸の里神楽  
21日(金) 午後6時  
阿波踊り  
22日(土) 午後7時30分

## 特別中庭参拝

特別中庭参拝

全日午後4時30分から  
午後8時30分まで受付

御神楽の夕べ 神前神楽  
22日(土)・23日(日) 午後6時

奉納芸能  
江戸の里神楽  
21日(金) 午後6時  
阿波踊り  
22日(土) 午後7時30分

特別中庭参拝をした方に参拝記念品「月餅」を進呈。玉串料 お一人500円(小学生以下無料)

小学生以下のお子様には露店で使える「おたのしみ券」を進呈。

外苑に、飲食・子供向けの露店を出店いたします。

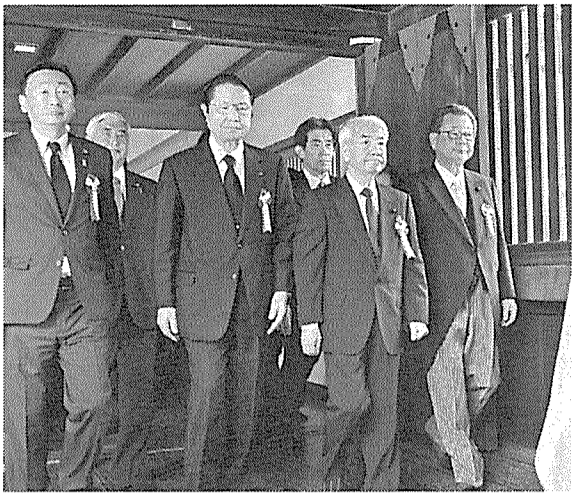
靖国神社



# 靖国神社に137人が参拝

## みんなで参拝国会議員の会 終戦の日

超党派の国会議員でつくる「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」(会長・尾辻秀久参議院議員)は八月十五日午前十一時、佐藤正久・外務、水落敏栄・文部科学兼内閣府、ともに副大臣ら百三十七人(代理含む)の衆参国会議員が靖国神社に揃って昇殿参拝した。なお今年も閣僚の参拝はなかった。



昇殿参拝に向かう「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」= 8月15日、靖国神社で

終戦から七十二年を迎えた八月十五日は、昨年と同様に朝早くから九段坂界隈は靖国神社、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に参る人、全国戦没者追悼式への参列者などで終日賑わった。特に靖国神社の境内では、社頭に向かう参拝者の列は引きも切らず長蛇の列をつくり、その中でも、小さな子供の手を引いた若い家族連れや若者の参拝者が目につき、靖国神社への関心の高さが窺えた。

### みんなで参拝する衆・参国会議員

- 平成三十年八月十五日、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」で参拝した百三十七人(代理含む)の衆・参議員は次のとおり。
- (党派別、敬称略)  
議員本人参拝  
▼衆議院  
【自民党】逢沢一郎、秋本真利、石川昭政、石原宏高、衛藤征士郎、大串正樹、大西英男、大西宏幸、岡下昌平、岸信夫、新谷正義、新藤義孝、高木啓、高島修一、田村憲久、長尾敬、中谷元、根本幸典、野中厚、藤丸敏、星野剛士、三ツ林裕巳、宮川典子、築和生、山口俊一、山本有二、和田義明、渡辺博道

- ▼参議院  
【自民党】青山繁晴、赤池誠章、有村治子、石井弘、磯崎仁彦、岩井茂樹、江島潔、太田房江、尾辻秀久、北村経夫、佐藤信秋、佐藤正久、塚田一郎、豊田俊郎、橋本聖子、三木亨、水落敏栄、三宅伸吾、山谷えり子、吉川ゆうみ
- ▼希望の党 中山恭子  
▼日本維新の会 東徹

- ▼衆議院  
【自民党】赤澤亮正、あきもと司、あべ俊子、石破茂、井上信治、井林辰憲、今村雅弘、うえの賢一郎、江藤拓、大塚高司、大塚拓、大野敬太郎
- ▼参議院  
【無所属】重徳和彦

- ▼衆議院  
【自民党】青木一彦、井原巧、衛藤正一、金子正志
- ▼参議院  
【無所属】重徳和彦

- ▼日本維新の会 片山虎之助  
【日本のこころ】中野正志

### 水落会長が現地を調査

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、日本政府がロシア連邦サハリン州スムイルフ地区ポベジノに建立した「樺太・千鳥戦没者慰霊碑」の維持管理状況を調査する一行は十六日、羽田空

港から新千歳空港で国際線に乗り継ぎ、ユジノサハリンスクに到着。翌十七日、小西克己在任のユジノサハリンスク日本国総領館副領事の同行を得て慰霊碑調査に向かった。午後三時三十分、慰霊碑の維持管理を担うスムイルフ地区行政庁を訪問し、

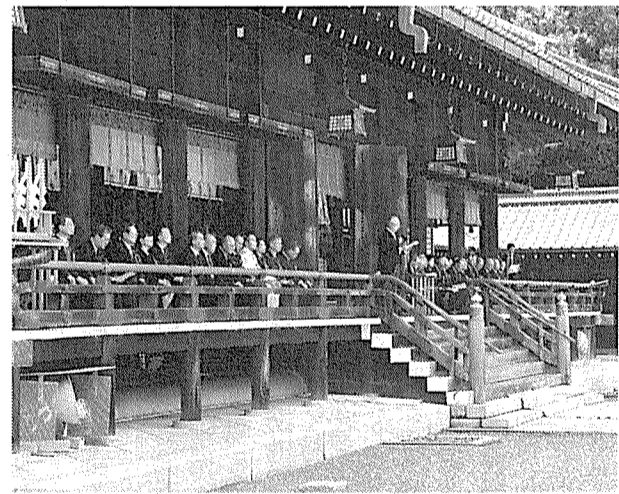
表敬、コスチコフ地区議長らと慰霊碑維持管理について意見交換した。その後、ポベジノにある慰霊碑に向かい調査を実施。慰霊碑は今年七月、本会の調査結果に基づき厚生労働省は三年間凍結していた大規模改修工事を行っている。内外装は概ね綺麗になっていたが、肝心の床面の一部に剥離が目立つので、先方に聞くこと、工事後後半が経過したとのこと。誠に残念な結果となった。夕刻、ペロババ・スムイルフ市長代行らに調査結果を報告し、今後の慰霊

碑管理を要請した。ユジノサハリンスクに戻った調査団は十八日、スムイルフに慰霊碑を建設する際、現地政府の窓口となったドロフスカヤ元観光局長を招いて懇談会を催し、二十日、正午からサハリン州政府の二コリナ文化副大臣らと会談を行った。水落会長から「今後も慰霊碑の管理や、戦没日本人の遺骨の収容にサハリン州政府のお力添えを願いたい」と要請した。

### 慰霊大祭を斎行

英霊にこたえる会が主催する「第四十三回全国戦没者慰霊大祭」が八月十五日、東京、靖国神社で午前九時から斎行された。大祭には水落敏栄本会会長(参議院議員)、市来健之助副会長(本会副会長)をはじめ自衛隊の統合・陸上・海上・航空幕僚長(各代理)、都道府県本部、中央参加団体

など約三百五十人が参列した。大祭は拓殖大学吹奏楽部の演奏により全員で国歌「君が代」を斉唱。次に、修祓、献饌に続いて齊主の祝詞奏上、寺島泰三会長が祭文を奏上した。最後に献楽ののち参列者全員が本殿に進み、玉串を捧げ拝礼した。また、同日午前十時三十分からは、英霊にこたえる会と日本会議共催の「第三十二回戦没者追悼中央国民集会」が靖国神社参道の大神宮前銅像北側に特設天幕を設置し



祭文を奏上する寺島泰三英霊にこたえる会会長 = 8月15日、靖国神社で

**日本遺族通信**  
年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰(遺骨収集、慰霊友好、慰霊巡拝)、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。次世代を担う青年部(孫・ひ孫)の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料 / 1,560円 (1年間 12回 税金・送料込)

お申込み  
日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521



二コリナ文化副大臣らと会談する水落敏栄会長(左中央) = 8月20日、サハリン州政府庁舎で

▼本会の諸会議  
本会で9月5日以降、開催した各種会議は次の通り。

▼常務理事会 9月5日  
①英霊顕彰・処遇改善の経過並びに今後の運動方法②平成30年度本会計予算の第二次補正について。

▼第1回今後の遺族会を考える特別委員会 9月5日  
①正副委員長の互選②今後、委員会で審議する事項等について。



好業 友事 霊善 慰親

# 旧満州、旧ソ連を実施

## 亡き父への思いを語る

日本遺族会主催の平成三十年度「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」が始まり、八月一日に旧満州、同二十日からは旧ソ連がそれぞれ旅立った。同事業は、各戦域を訪れ亡き父等の戦没地を巡り慰霊追悼を行うとともに、各地で小学校や病院等を訪問し、現地の方々との友好親善を深めていくことを目的としている。

### 旧満州

永澤庄一郎本会常務理事を団長とする日中友好訪問団(東北地区)は、

八月一日、靖国会館に参集、結団式の後、ご本殿に上がり昇殿参拝、翌日、中国東北部へと出発した。一行十一人は翌三日から、牡丹江を起点に東寧、陣地、四道嶺、東京城、青溝子方面の父縁の地を訪れ、亡き父に手を合わせる。



ホテルの一室で慰霊祭が厳粛に行われる  
= 8月4日、牡丹江で

### 旧ソ連

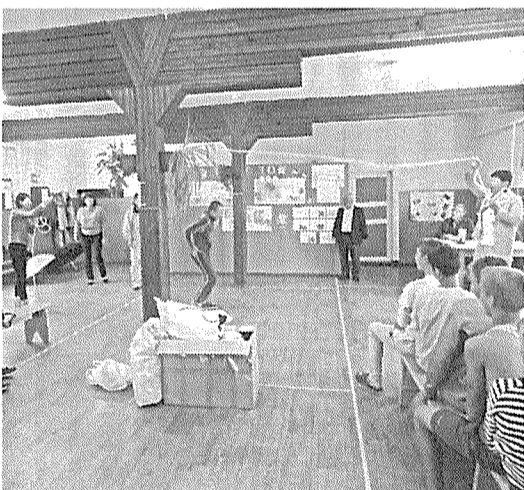
畔上和男本会専務理事を総括団長とする旧ソ連慰霊友好親善訪問団は、八月二十日全国の遺児代表十六人が東京の靖国会館で結団式を行い、翌二十一日シベリア抑留で亡くなった父の慰霊のため、ロシアのハバロフスクを経由し、それぞれ縁の地へ向かい第一歩を印した。A班は、ハバロフスク州ハバロフスクのアムール川国境沿い、コムソモリスクから車で二時間半のボニーとさらに車で二時間の陸路途絶の地ケルスコエ村、シベリヤ鉄道沿線のロンドコノの埋葬地跡、アムール州境近くのクリドールの埋葬地跡でそれぞれ慰霊祭を行い、亡き父への思いを涙ながらに語り掛けた。

B班は、イルクーツク州の第三五九一五特別野戦病院・トゥルン市地区埋葬地跡、タイシエツト地区ウダグナエミエスタの第七収容所第八支部・第七保養支隊埋葬地跡、チタ州の第二十四収容所第十支部第一・第二墓地ノーバヤ駅埋葬地跡、カダラ村第一・第二・第三墓地埋葬地跡で亡き父に語り掛ける。現地では、ハバロフスク州ピロビジャンと、イルクーツク州タイシエツト、キビトク村で病院や孤児院を訪問し、車椅子や団員が持ち寄った学用品と衣料品など贈呈、施設敷地内で記念植樹を行った。

### 抑留中死亡者遺骨収集団

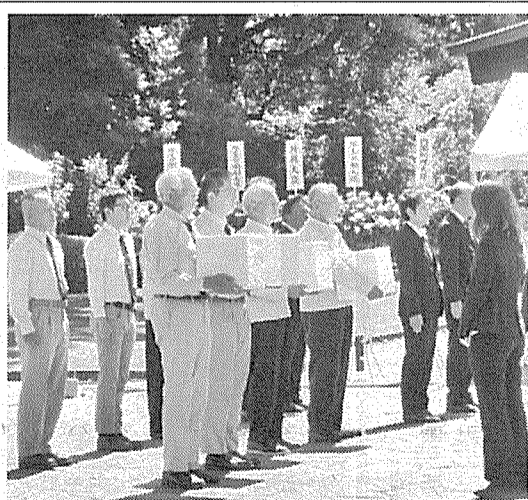
日本戦没者遺骨収集推進協会は、旧ソ連抑留中死亡者遺骨収集隊で、ハバロフスク地方第二次及びザバイカル地方を七月二十三日から八月八日の期間で、クラスノヤルスク地方及びプリヤート共和国を八月六日から二十二日の期間で実施し、本会からも各派遣に対し参加協力した。

ハバロフスク地方第一次遺骨収集隊は昨年引き続き、ソールネチヌイ地区グリーン村の第四九二三野病グリーン居住地墓地で遺骨収集に従事し、四十三柱の遺骨を収容した。ザバイカル地方遺骨収集隊は、ペトロスク・ザバイカルスキー地区にある第五二〇労働大隊ノボ



キビトク村の孤児院を訪問し学用品等を寄贈後、子供達と交流 = 8月23日、タイシエツトで

パプロフスカその1、その2で遺骨収集を行い、二十七柱を収容した。クラスノヤルスク地方遺骨収集隊は、セーベロエニセスク地区ミハイロフスキー村にある第三十四収容所第九支部埋葬地で遺骨の発掘にあたり、十一柱を収容した。プリヤート共和国遺骨収集隊は、ザカメンスク地区バヤンゴル村の第二十八収容所バヤンゴル村墓地で作業にあたり、一柱を収容した。各派遣団は収容した遺骨を焼骨し、現地で追悼式を執り行い、すべての任務を終え、全員無事帰国し、ハバロフスク第一



各派遣団から厚生労働者へ遺骨が引き渡される  
= 8月22日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

## 遺児の参加者募集

### 慰霊友好親善事業

募集要項は次のとおり。▼時期及び地域 実施概要参照。▼参加費 10万円 ※東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通機関はご自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き

数料等は個人負担となる。▼参加資格 戦没者の遺児。平成二十九年度参加者を除き、複数回の応募が出来る。▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目の全てに記入を要するの

り寄せていただき、記入項目に不明な点(戦没者の部隊名等)があれば各遺族会に相談し条件を満たしたうえで提出願いたい。なお、申込多数の場合は選考となる。また、巡拝地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、延期または中止となる場合があるため、予めご了承願いたい。

※今年度より参加者の高齢化を考慮し、看護師が同行する。

### 実施概要

(広域地域)

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 ミャンマー・タイ	平成30年 11月27日~12月6日	80人	9月27日
2 台湾・バシー海峡	平成31年 1月18日~1月24日	30人	11月16日
3 マーシャル・ギルバート諸島	平成31年 3月9日~3月17日	40人	11月9日
4 フィリピン(2次)	平成31年 3月13日~3月20日	120人	1月11日
5 中国	平成31年 3月22日~3月30日	80人	1月22日

(特定地域)

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 西部ニューギニア	平成31年 2月4日~2月13日	36人	12月4日
2 東部ニューギニア	平成31年 2月13日~2月20日	36人	12月13日
3 ミャンマー	平成31年 2月26日~3月6日	36人	12月21日

## 本会への賛助金のお礼

本紙(同面)でもお願

いしている本会への賛助金につきまして、ご賛助いただきました左記の方々に対し、お礼申し上げます。なお、大変恐縮ではございますが都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合がございます。

略させていただきます。賛助者名(敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等) 中村マサ、鴨田篤和、皆川潔、會津博、古閑総朗、中安一夫、上東順一、坂巻素子、田島典子、栗石賢一、嶋武浩、坪野保雄、横田光雄、天野千世、杉田慎照、坂本淑子、

### 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛助いただきますようお願い申し上げます。

郵便振替 0013021694969 普通預金 09880930

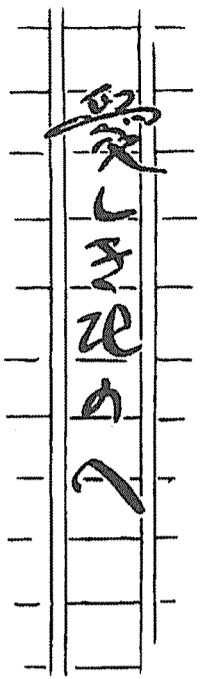
※口座名は「一般財団法人日本遺族会」二ホンソウカイ

# 昭和館で特別企画展

## 入場者三万五千人を超える

昭和館では、七月二十一日から九月九日にかけて、「昭和館で学ぶ『この世界の片隅に』」と題して、特別企画展を開催。漫画『この世界の片隅に』に描かれた、戦中・戦後の「この世界」をリアルに感じてもらうため、漫画パネルとあわせ、作品に描かれた実物資料や当時の様子を写した写真等、約三三〇点の資料が紹介された。

漫画『この世界の片隅に』は戦中・戦後を広島・ユモラスに描き、描き手としており、作者のこの時代の市井の人々の暮らしや、戦時中の生活の苦しさや、苦しみや物語に込められた思いが、昭和二十一年一月七日、十一月に公開された劇場版『この世界の片隅に』の制作陣や、当時の取材の様子などが紹介された。



入営に際して

陸軍軍曹 川床 悟

昭和二十一年一月七日

ファイリントン島にて戦死

鹿児島県川辺郡知覧町出身 二十三歳

前略、この度私儀入営に際しては、私人の喜びならず、家同様の事と存じます。私入営致しました上は、勅諭五ヶ条の精神すなわち戦陣訓を良く肝に銘じて一意専心、微力ながらも盡忠報国の誠を致す覚悟です。それゆえ征く上は、一度と生還は期さない決心です。縦ひ自分の遺骨が還らなくても、敢て心配してくださいませぬ。また便りのない時は、元気で精励して居ると思っております。

姉さん達が切磋琢磨して父母を擁護して、そして子供を良く養育して、帝国軍人の家庭として恥かしからぬ明るく立派な家庭を建設して下さい、お願いします。自分たちは、国家非常時の際、皇恩の万分の二でも報ゆる事の出来る事を無上の光榮として、元気で征きます。

最後に御両親を始め姉さん達皆様が、くれぐれも達者でお暮し遊ばすことをお祈り致します。

昭和十九年三月十六日夜

家内一同へ

天皇陛下万歳  
大日本帝国万歳

【平成三十年九月靖国神社頭掲示】  
愛しきものへ



特別企画展の展示資料を見学する来館者  
= 昭和館で

なっており、今年七月からはTBSテレビでもドラマ化され、様々な形で

多くの人々に愛された。会場では、家庭の暮らし、戦後を支えた人々、戦争がもたらしたものの、戦争が終わった後のコーナートに分け、漫画パネルとそれに関連の深い実物資料や写真が展示された。特別企画展の会場だけでなく、昭和館全体を通じて戦中・戦後という時代について理解を深め、漫画の世界から現実の世界へと一歩踏み出し、当時の人々の生活上の苦労

## 九段短歌

作品をお寄せください。  
選者 安元 百合子  
親戚の最高齢に踊り出て戦死の父を語る者なし

- 富山県 酒井 映子
- 長浜市 雨森 貴子
- 山形県 菊地 幸子
- 浦和市 小林 和代
- 深谷市 金井 文男
- 南相馬市 原 芳広

## 地方だよ

- 各都道府県遺族会で、実施された大会、研修会等は次のとおり。
- ▼佐賀県 7月14日 平成30年度佐賀県遺族会研修会(110人)
- ▼徳島県 7月22日 徳島県遺族会女
- ▼徳島県 8月3日 忠霊塔合葬戦没者一万人八千九百九十の慰霊祭(450人)
- ▼徳島県 8月11日 第47回語り部事業(40人)
- ▼徳島県 8月11日 第47回語り部事業(40人)

## ロシアとカザフスタンで慰霊碑移設等事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間慰霊碑移設等事業で、ロシア連邦、カザフスタン共和国へそれぞれ二人を相次いで派遣した。

ロシア連邦へは、八月五日から十二日の期間でハバロフスク地方へ派遣し、厚生労働省が指定した不良慰霊碑五基を調査した。ウソコゴル二村に到着した派遣団は最初に村役場を尋ね、タチアセに慰霊碑を調査した。

カザフスタン共和国へは八月二十一日から二十七日の期間で派遣し、厚生労働省が不良と判定している慰霊碑四基を調査した。カラカンダ州では

## 特別企画展 開催

徳島県では先の大戦等に関する歴史の事実を伝え、戦争と平和について考える契機を提供する。

徳島県では先の大戦等に関する歴史の事実を伝え、戦争と平和について考える契機を提供する。

## 「秋の夜長の御神楽」開催

靖国神社では九月二十一日から二十三日の間、神社境内において「秋の夜長の御神楽」を開催。期間中は本殿に最も近い御神域に午後五時以降に参拝できる「特別中庭参拝」や内苑能楽堂で神楽の奉納があり、閉門時間は午後九時まで延長される。



放置されている慰霊碑周辺を清掃する派遣団  
= 8月24日、カザフスタンで